

件名

【12/26】 第100回ピースボートが横浜出航!

本文 1983年に初めて大海原へ漕ぎ出したピースボートは、今年35周年を迎え、来る12月26日(水)に第100回目の航海へ横浜から旅立ちます。

■第100回ピースボート出航記者会見

日時:

12月26日(水) 10:00~

場所:

横浜港大さん橋国際客船ターミナル2F会議室

(みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩7分/<https://osanbashi.jp/access/>)

出席者:

吉岡達也(ピースボート創設メンバー、共同代表)

鎌田慧(ルポライター、ピースボート水先案内人)

イラク・リアス(フィリピンのNGO「リッター・オブ・ライト」代表)

森山景(広島・被爆三世、「おりづるプロジェクト」ユース特使)

川崎哲(ピースボート共同代表/ICAN国際運営委員)

■詳細

<http://peaceboat.org/25577.html>

※出港は13:00頃です。

■ピースボート事務局(担当:中山、堀場)

[Tel:03-3363-7561](tel:03-3363-7561)/[Fax:03-3363-7562](tel:03-3363-7562)/info@peaceboat.gr.jp

■ピースボート35周年、第100回クルーズの概要はこちら:

○初航海は1983年(昭和58年)

ピースボートの初めての航海は1983年。東京ディズニーランド開園、レーガン大統領が「悪の帝国」演説、スペースシャトル「チャレンジャー」に初の女性宇宙飛行士が搭乗、大韓航空機撃墜事件が勃発……そんな時代のことです。日本では、先の大戦で日本はアジア諸国へ「進出」したのか「侵略」したのか一歴史教科書の記載をめぐる論争が巻き起こっていました。こうした中「自分たちの目で見に行こう!」と当時大学生だった若者らが中心となり漕ぎ出したのが、第1回ピースボートです。

○「平成」より長く、世界史と共に歩んだ35年

35年に渡る航海のあいだに世界は大きく変わりました。東西ドイツが統一し、ソビエト連邦が崩壊。湾岸戦争、阪神淡路大震災、ユーロ誕生、米国同時多発テロ、イラク戦争、リーマンショック、アラブの春、東日本大震災、米国・キューバが国交を回復……。世界の枠組みが大きく変わる出来事が続き、今なお激動の中にあります。こうした歴史を、ピースボートは世界の海をめぐりながら、つづさに見てきました。

○のべ7万人をこえる参加者と200以上の港を

数百名の若者から始まった船旅は、回を重ね、これまでの乗船者数はのべ7万人以上。訪れた港も200を超えました。その参加者層も多様化し、現在では就学前の小さな子どもたちから、80代・90代の方まで、1クルーズあたり約1000名が乗船し、共に世界をめぐっています。また船上の国際化も進み、現在では参加者の約2割は海外からの参加。中国や台湾、シンガポールはじめ、世界各地の人々が1つの船に集い、新た

な「場」を紡ぎながら航海を続けています。

○国連特別協議資格を取得、ICANがノーベル平和賞を受賞

「平和」を掲げた航海を続け、2002年には国連経済社会理事会（ECOSOC）の特別協議資格を取得。2009年からは国連「ミレニアムキャンペーン（MDGs）」共同プロジェクトをスタート。2016年には国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の公式キャンペーン船に認定されました。さらにピースボート設立当初から続けてきた核廃絶プロジェクトは、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の発足へと繋がり、2010年からは国際運営団体に。ICANは2017年、核兵器禁止条約採択への貢献からノーベル平和賞を受賞しました。

○そして100回目の航海へー

ピースボートの第100回クルーズは、南半球をめぐる「地球一周」です。

本航海では、アフリカや南米、南太平洋の国々で、歴史検証や人権・平和をテーマとした交流プログラムを行います。またブラジル在住の広島被爆者と共に寄港する各地で証言会を行い核廃絶の声を広げる「おりづるプロジェクト」や、太陽光エネルギーを使った持続可能な照明システムを世界中に届ける「Voyage of Light」プロジェクトなどを実施します。出港にあたりこれらのプロジェクトのために乗船する方々とともに記者会見を行います。
